

イチゴ育成系統「福岡S6号」及び「福岡S7号」の生育特性					
[要約] イチゴの新系統「福岡S6号」及び「福岡S7号」は、「とよのか」に比べて自然状態での花芽分化がやや遅いが、夜冷短日処理により「とよのか」同様に11月中旬から収穫できる。総収量は、2系統とも「とよのか」に対して同等以上である。					
担当部署	園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室			連絡先	092-922-4364
対象作目	野菜	専門項目	栽培	成果分類	生理生態

[背景・ねらい]

本県で栽培されるイチゴの主要品種である「とよのか」は、食味や香りが優れることから高く評価されているが、草姿がやや開張性で果実の着色が劣るため、着色促進などの管理作業に多くの労力を要することが問題となっている。このため、草姿が立性で、果実の着色がよく、大果で食味の優れた「福岡S6号」及び「福岡S7号」を育成したので、その生育特性と収量性を明らかにする。

(要望機関名：生産流通課、八女普、南筑後普(H6))

[成果の内容・特徴]

1. 自然状態での頂果房の花芽分化時期や出蕾及び開花は、「福岡S6号」、「福岡S7号」とも「とよのか」に比べてやや遅いが、夜冷短日処理によって「とよのか」と同様に11月中旬から収穫できる(表1、2)。
2. 出葉に要する日数は、2系統とも「とよのか」に比べて多く、腋果房の出蕾が遅い(表3、データ略)。
3. 総収量は、2系統とも「とよのか」と比べて同等以上である。また、夜冷短日処理による促成栽培では2系統とも頂果房収穫後の1～2月に収穫量が減少する(表4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 平成13年11月に品種登録出願の予定である。
2. 「福岡S6号」及び「福岡S7号」の栽培技術資料として活用できる。

[具体的データ]

表 1 自然状態での頂果房の花芽分化時期（平成12年）

品 種	福岡 S 6 号	福岡 S 7 号	とよのか
花芽分化時期	9月18日	9月18日	9月10日

表 2 頂果房の出蕾・開花日および収穫開始時期（平成12年）

系統(品種)	普通促成栽培			夜冷短日処理による促成栽培		
	出蕾日	開花日	収穫開始日	出蕾日	開花日	収穫開始日
福岡 S 6 号	10月26日	11月 2日	12月 5日	10月 9日	10月15日	11月17日
福岡 S 7 号	10月31日	11月10日	12月19日	10月 8日	10月17日	11月13日
とよのか	10月18日	10月26日	12月 1日	10月 6日	10月15日	11月13日

注) 定植日：普通促成栽培 9月18日、夜冷短日処理による促成栽培 9月6日

表 3 普通促成栽培において出葉に要した日数（平成12年）

系統(品種)	出蕾～11月7日	11月18日～12月7日	12月8日～1月19日	1月20日～2月20日
福岡 S 6 号	7.4日	12.9日	17.6日	13.2日
福岡 S 7 号	7.3日	13.0日	18.1日	14.6日
とよのか	5.9日	9.3日	11.9日	10.0日

注) 1. 1枚の葉が出葉するために要した日数

2. 出蕾日：福岡S6号 10月23日、福岡S7号 10月25日、とよのか 10月18日

表 4 時期別収量（平成12年）

作型	系統 (品種)	月別収量 (kg/10a)						合 計
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	
普通促成	福岡 S 6 号	0	760	362	137	868	1,858	3,985 (113)
	福岡 S 7 号	0	258	454	299	1,015	1,628	3,654 (104)
	とよのか	0	844	277	17	932	1,451	3,521 (100)
夜冷短日	福岡 S 6 号	411	487	42	2	1,327	1,286	3,555 (111)
	福岡 S 7 号	312	603	39	3	1,816	1,490	4,263 (133)
	とよのか	348	533	42	159	1,303	809	3,194 (100)

注) 1. ()はとよのかの収量を100とした指数

2. 定植日は表2に同じ

[その他]

研究課題名：省力栽培に適した高品質イチゴの育成

予算区分：特研

研究期間：平成12年度（平成8～12年）

研究担当者：三井寿一、藤田幸一、末吉孝行

発表論文等：平成12年度野菜成績概要書